

平成25年3月期
第2四半期決算説明会

ナノキャリア株式会社

東証マザーズ 4571



代表取締役社長 中富 一郎

 NanoCarrier®

薬の未来を創造する

2012年11月12日（月） 13：30
主催：日本証券アナリスト協会

目次

1. 会社概要
2. 第2四半期 決算概要
3. 第2四半期 成果とトピックス
4. 今期の事業戦略と目標
5. 技術・製品価値および企業価値

ナノキャリア株式会社

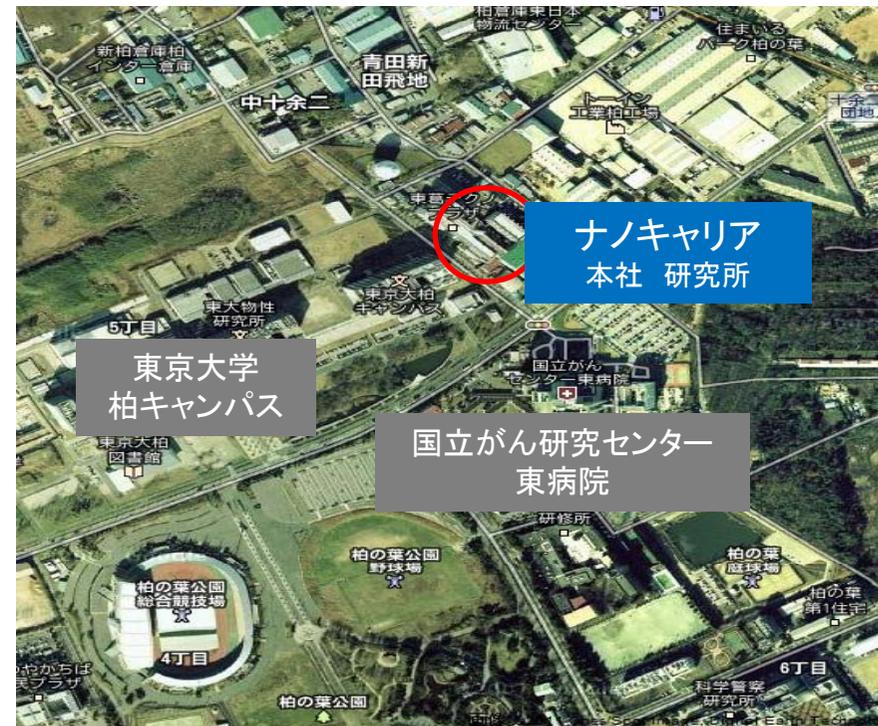
1996年

発明者である片岡一則教授（東大） および岡野光夫教授（東女医大）らと会社を設立

【ミッション】
 ナノテクノロジーを用いて新しい医薬品を創出し
 人々の健康とQOLの向上に貢献します

【ビジョン】
 がん領域のイノベーションファーマとして
 世の中に必要とされる「ファーストワン」を目指します

日本発「ミセル化ナノ粒子」 を基盤に技術開発



沿革

2000年	本格始動	
2004年	NK105	Phase I
2006年	NC-6004	Phase I
2007年	NK105	Phase II (胃がん)
2008年	東証マザーズ上場	
2009年	NC-6004	Phase I / II (膵がん)
	NC-4016	Phase I
2010年	NK105	Phase I (乳がん)
2011年	NC-6300	Pre-Clinical
	NC-6004	Phase II Part (膵がん)
2012年	NK105	Phase III (乳がん)
	NC-6004	Phase I (固形がん)

本社 & 研究所: 千葉県柏市柏の葉5-4-19
 東京 オフィス: 東京都中央区日本橋3-2-2
 U S A 駐在 : コネチカット州

会社概要

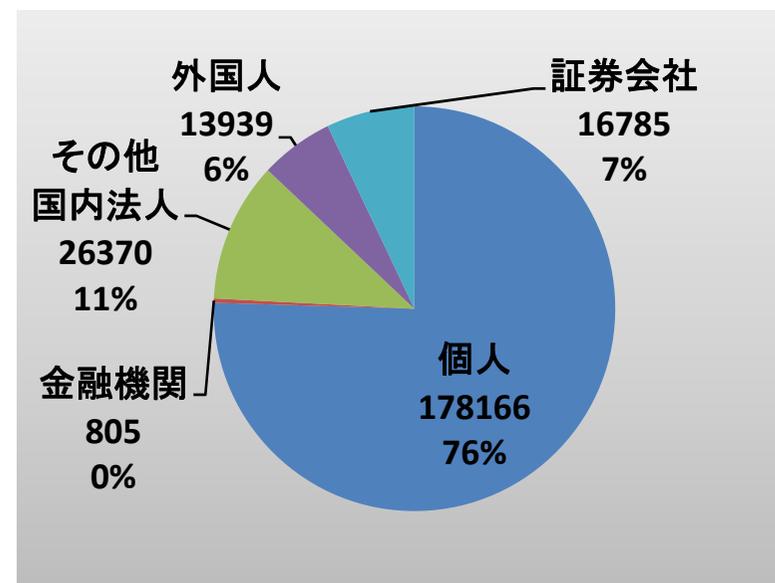
所在地	本社/研究所	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉五丁目4番地19
	東京オフィス	〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番2号 八重洲ヤマガタビル
設立	1996年6月14日	
上場市場、及び年月日	東京証券取引所マザーズ 上場 2008年3月5日	
資本金	3,599百万円 (2012年10月31日現在)	
時価総額	28,367百万円 (2012年11月9日現在)	
役職員	42名 (非常勤取締役・監査役を含む)	
取締役	代表取締役社長CEO	中富 一郎
	CBO兼事業開発部長	花田 博幸 (元生化学工業 研究開発担当執行役員)
	CSO	加藤 泰己 (元協和発酵 製剤研究所所長)
	CFO兼管理部長兼社長室長	中塚 琢磨 (元日本シェーリング 常務取締役)
	非常勤取締役	岡野 光夫 (東京女子医大教授)
		大橋 彰 (医師 クリニック院長)
		松村 淳 (ウイズ・パートナーズ 代表取締役副社長)
		飯野 智 (ウイズ・パートナーズ 執行役員)
監査役	常勤監査役	野口 勘四郎 (元化合物安全性研究所 常務取締役総務部長)
	非常勤監査役	森嶋 正 (森嶋公認会計士事務所 代表 公認会計士)
		古田 利雄 (クレア法律事務所 代表社員弁護士)
アドバイザー	藤澤 朋行 (ウイズ・パートナーズ 取締役、元武田薬品工業 研究アライアンス室長)	
サイエンティフィック アドバイザー	片岡 一則 (東京大学大学院教授)	
	長崎 幸夫 (筑波大学大学院教授)	

大株主

※2012年9月末現在

順位	株主	保有数	保有率 (%)
1	中富 一郎	11,122	4.71
2	興和株式会社	11,000	4.65
3	CYNTEC CO., LTD. (OEP社)	8,232	3.48
4	松井証券	6,408	2.71
5	株式会社メディネット	4,819	2.04
6	太田 昌市	3,987	1.68
7	CCP メザニン2006投資事業組合	3,696	1.56
8	Teikoku Pharma USA	3,332	1.41
9	岡野光夫	2,882	1.22
10	大和証券	2,615	1.10
上位10名合計		58,093	24.6
発行済株総数		236,065	-

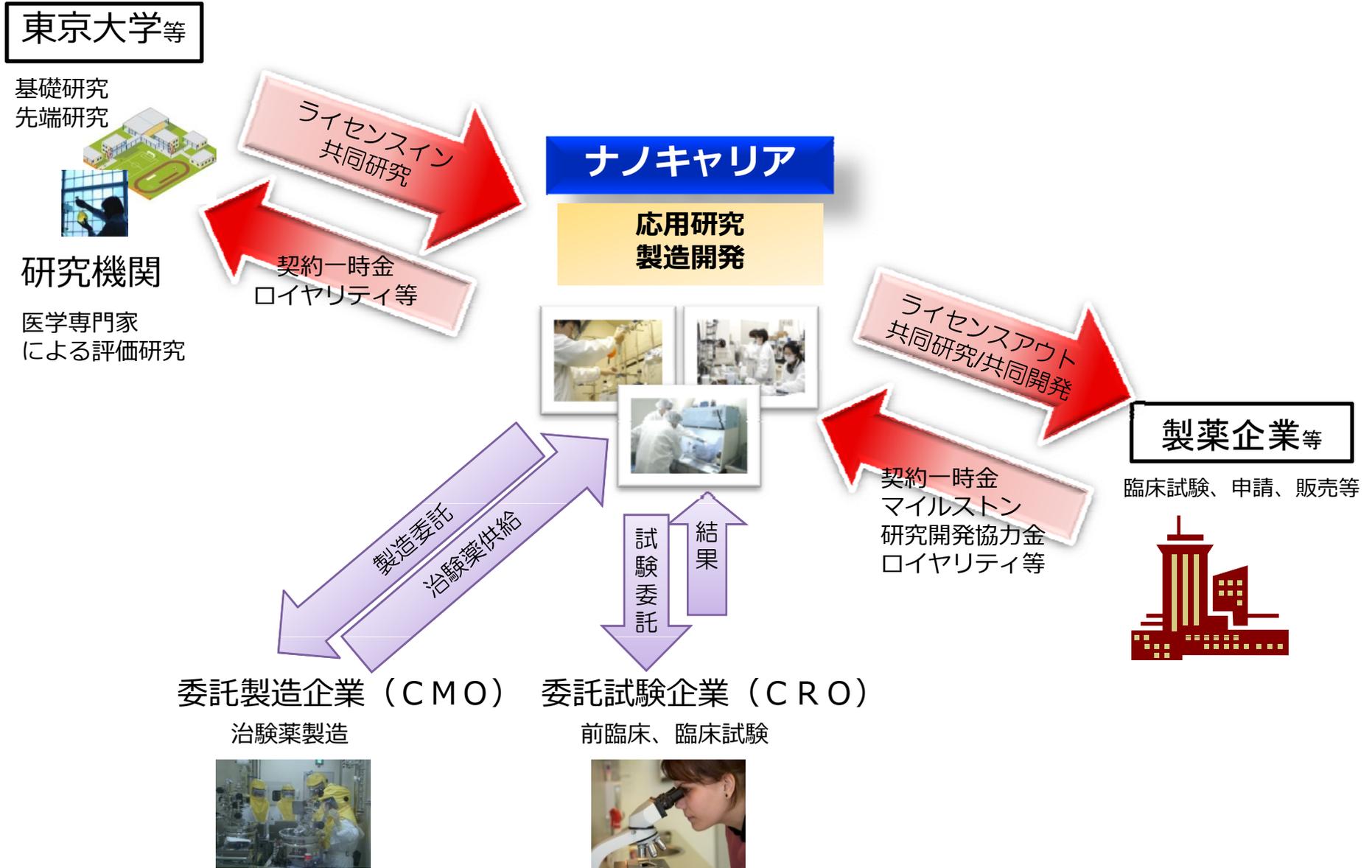
株主数：8,254名



※ウィズ・パートナーズは、2012年3月21日に最大37億円（転換社債・新株予約権）の投資を決定しており、当社の持株比率に変更が見込まれる。

※信越化学は、2012年11月15日に24000株（9.22%）を取得する予定。

ビジネスモデル



事業戦略

POC医薬品

市販品や臨床途上の医薬品

ファーマコ・カインेटクスを改良して治療域を広げ、新しい薬効と用量・用法を確立する

市場

アンメットニーズと市場の拡大

治療目的に応じた医薬品とし、グローバル展開を目指す

自社開発&提携

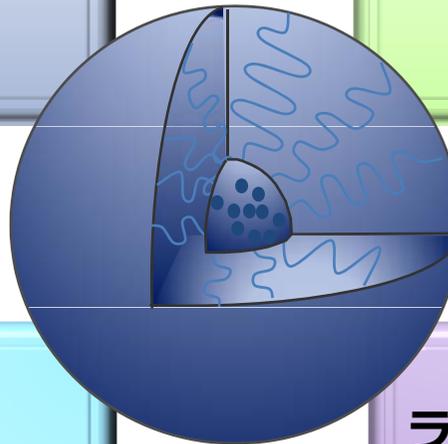
自社開発/共同研究開発/ ライセンス提携

自社開発を重視しつつ、提携を進め経営バランスを保つ

知的財産

独占性の確立 ライフサイクルマネージメント

- ・特許による基盤技術の優位性を確保
- ・参入障壁を構築する
- ・特許期間の延長を確保する



パイプライン一覧

開発品目	対象疾患	基礎研究	非臨床試験	Phase I	Phase II	Phase III
NK105 パクリタキセルミセル	乳がん	Asia →				
	胃がん	Japan →				
NC-6004 ナノプラチン®	膵臓がん	Asia →				
	固形がん	Japan →				
NC-4016 ダハプラチン誘導体ミセル	固形がん	EU →				
NC-6300 エピルビシンミセル	がん	Japan →				
タンパク質ミセル	各種疾患	→				
siRNA ミセル	がん	→				
ドセタキセルミセル	がん	→				
ボルテゾミブミセル	がん	→				
センサー結合型ミセル	各種疾患	→				

主要パイプラインの提携 — 臨床開発

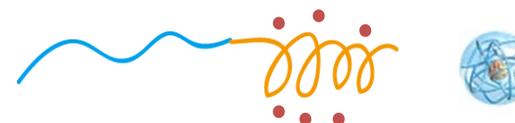
開発品目	対象疾患	ステージ	開発地域	ライセンス先 共同開発先	ライセンス 地域
パクリタキセルミセル (NK105)	乳がん	PIII	国内 アジア	日本化薬	日本 アジア
	胃がん	PII 終了	国内		
ナノプラチン® (NC-6004)	膵臓がん	PI/II	アジア	Orient Europharma	アジア (日本、中国 本土、インドを 除く) オセアニア
	固形がん	PI	国内	—	
ダハプラチン誘導体ミセル (NC-4016)	固形がん	PI	欧州	—	—
エピルビシンミセル (NC-6300)	がん	非臨床	国内	興和	世界

新規開発パイプラインの提携 — 基礎研究

開発品目	対象疾患	ライセンス先 共同研究先	システム
タンパク質ミセル	各種疾患	非公開	NanoCap®
siRNAミセル	各種疾患	東京大学 京都大学 他非公開	NanoCap®
ドセタキセルミセル	がん	—	Medicelle®
ボルテゾミブミセル	がん	—	Medicelle®
センサー結合型ミセル	がん	非公開	NanoCoat®
その他	—	エーザイ など	Medicelle®

NanoCap®

物理吸着型
静電結合型



Medicelle®

化学結合型



NanoCoat®

センサー結合型



平成25年3月期 第2四半期
決算概要

損益計算書

第二四半期累計実績は売上、利益（損失）ともに修正後予想どおり、当初予想からは改善

単位:百万円	平成24年3月期 第2四半期（累計）	平成25年3月期 第2四半期（累計）		
	実績	実績	修正業績予想	当初業績予想
売上高	210	99	99	69
売上原価	22	88	-	-
売上総利益	187	10	-	-
販管費	296	277	-	-
（開発費）	(142)	(184)	-	-
営業利益	△108	△266	△267	△529
経常利益	△110	△266	△267	△530
純利益	△110	△268	△268	△531

貸借対照表

資産合計は研究開発費支出の増加に伴い1.85億円減少。固定資産が減少し、短期性現預金、治験用原材料、試験の前払い費用などの流動性資産が増加

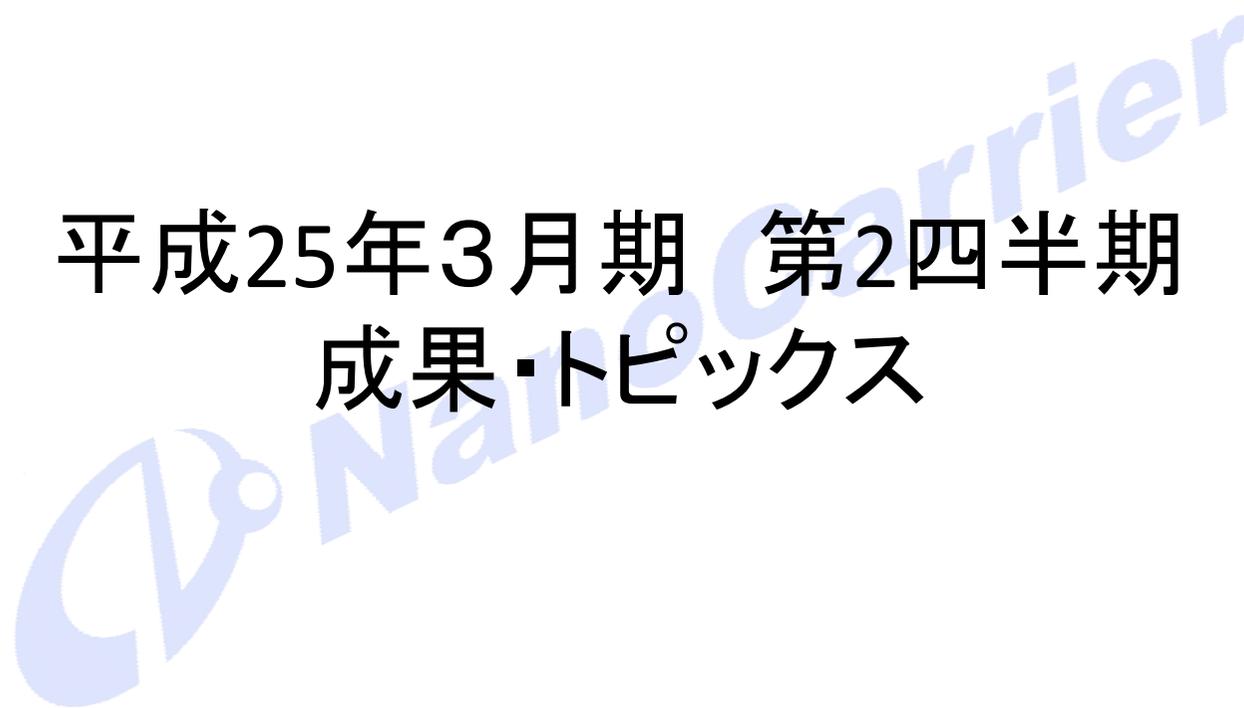
単位:百万円	平成24年3月期末	平成25年3月期第2四半期末		
	金額	金額	構成比 (%)	増減額
流動資産	3,112	3,407	98%	294
固定資産	550	70	2%	△479
資産合計	3,662	3,477	100%	△185
流動負債	103	138	8%	34
固定負債	1,700	1,700	0%	0
負債合計	1,803	1,838	53%	34
純資産合計	1,858	1,639	47%	△219
負債純資産合計	3,662	3,477	100%	△185

キャッシュ・フロー計算書

研究開発費用の増加、原材料や試験の前払い費用の増加、研究用機器の購入などによりキャッシュアウトが増加、現金同等物は1億39百万円減少。CF計算上では含まれない3カ月超の短期性現預金を含めると手元現預金は30億円超

単位:百万円		平成24年3月期 第2四半期 (累計)	平成25年3月期 第2四半期 (累計)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー		△293	△367	△73
投資活動によるキャッシュ・フロー		△14	△27	△13
フリー・キャッシュ・フロー		△308	△394	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー		△4	33	38
現金及び現金同等物の増減額		△312	△361	△48
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,559	1,419	△139

平成25年3月期 第2四半期
成果・トピックス



主なIR情報(2012年4月～11月)

2012年11月12日現在

16

- 2012.11.09 株式会社メディネットとの共同研究結果に関するご報告
- 2012.11.09 LFB Biotechnologiesとの共同研究契約について
- 2012.11.07 NC-6004ナノプラチン® 台湾政府立ち会いのもとに執り行われたライセンス契約調印式
- 2012.10.26 信越化学工業株式会社への第三者割当による新株式発行に関するお知らせ
- 2012.10.09 分子標的薬ベルケイドのDDS新薬に関する物質特許が日本国にて特許査定を受けました
- 2012.10.05 NC-6004ナノプラチン® 国内第I 相臨床試験開始のお知らせ
- 2012.10.02 NC-6004ナノプラチン® アジアPhase I stageに関する試験結果を欧州癌治療学会議で発表
- 2012.10.01 NC-6004ナノプラチン® 新規ライセンスおよび出資に関する覚書締結のお知らせ
- 2012.09.21 NC-6004ナノプラチン® アジアPhase I stage に関する試験結果を日本癌学会学術総会で発表
- 2012.08.08 国立大学法人京都大学との共同研究延長のお知らせ
- 2012.07.30 アルビオンと化粧品素材の開発及び商業化に関する契約締結のお知らせ
- 2012.07.25 サイエントフィック・アドバイザーの片岡一則教授が江崎玲於奈賞を受賞されました
- 2012.07.17 パクリタキセルミセル(NK105)第Ⅲ相臨床試験開始のお知らせ
- 2012.07.02 放出持続型ドセタキセルDDS 製剤に関する物質特許が日本国にて特許査定を受けました
- 2012.06.27 NC-6004ナノプラチン®の国内IND申請に関するお知らせ
- 2012.06.26 DDS学会での発表に関するお知らせ
- 2012.06.11 ドセタキセルDDS 製剤に関する論文がInternational Journal of Nanomedicine に掲載
- 2012.06.05 NC-6004ナノプラチン® 第2相臨床試験の患者登録終了のお知らせ
- 2012.05.10 アルビオンと化粧品素材の開発に関して基本合意
- 2012.04.26 放出持続型ドセタキセルDDS 製剤に関する物質特許が欧州にて特許査定を受けました
- 2012.04.20 AACR(米国癌学会)での発表に関するご報告
- 2012.04.17 センサー結合型ポリマーミセルに関する物質特許が中国にて特許査定を受けました
- 2012.04.04 遺伝子キャリアに関する物質特許が欧州にて特許査定を受けました

株価

時価総額(11/9) 280億円
 株価(11/9) 120,000円
 最高値(11/8) 126,800円



1. 化粧品事業
株式会社アルビオンとの共同研究開発及び素材供給契約（7月）
2. 基礎研究の成果・発表および基盤技術の拡充
 - ・ 京都大学とのsiRNAに関する研究継続（8月）
 - ・ 日本DDS学会、日本がん学会、ESMOでの成果発表（7月～10月）
 - ・ International Journal of Nanomedicine に掲載～ドセタキセルミセル（7月）
3. 新規開発パイプラインの拡充
ボルテゾミブ（ベルケイド®）のミセル化新薬の特許査定（日本10月）
ドセタキセルミセルに関する特許査定（欧州4月、日本7月）
4. 資本提携
信越化学工業株式会社への第三者割当増資（10月）
5. 主要パイプラインの開発進捗および提携
NC-6004：国内臨床試験（第I相）開始（10月）
OEPへのグローバル製造権を含むアジアでの新ライセンス契約（11月）

化粧品への応用

2012年7月30日 株式会社アルビオンと 化粧品の素材開発に関して契約締結

新たな化粧品素材の開発を推進して行くための、
中長期的な協力関係の構築に向けた契約を締結

ミセル化ナノ粒子技術を応用した新しい化粧品素材の共同開発を行い、
その素材を使用した化粧品をアルビオンが製品化

☆2013年秋に、新製品発売の予定

株式会社アルビオン

創業 : 1956 (昭和31) 年3月2日

資本金 : 7億6098万円

代表 : 代表取締役社長 小林 章一

従業員数 : 2980名 (男性480名、女性2500名)

事業内容 : 高級化粧品の製造・販売

化粧品全般の開発および全国の一流百貨店・有力化粧品専門店を通じた販売

取扱ブランド : アルビオン/イグニス/エレガンス/ソニア リキエル/アナ スイ/
ポール&ジョー/レ・メルヴェイユーズ ラデュレ



siRNAの共同研究

◆2009年9月～ 東京大学（片岡教授ら）との共同研究

最先端研究開発支援プログラム（NanoFirst）※へ参加

siRNA医薬の実用化を目指す研究

※NanoFirst:

内閣府により、2009年に研究開発成果の国民及び社会への確かな還元を図ることを目的とした、「研究者最優先」の研究支援制度として総額1,000億円の「最先端研究開発支援プログラム」が創設されました。その中心研究者30名に片岡一則教授（東京大学大学院）が選ばれ、当社も共同提案者として共同研究を進めています。

◆2012年8月～ 京都大学との共同研究延長契約

新規機能RNAiを、ミセル化ナノ粒子内に内包する新しい試み



動物モデル等を用いた次ステップの評価研究を進め、新規核酸ミセル医薬品の
実用化の時期に入っている

新規医薬品の拡充 - 低分子:ボルテゾミブ(ベルケイド®)

◆国内特許取得

ライフサイクルマネージメントが可能となる事例

【発明の名称】	ボロン酸化合物を含有したブロック共重合体を含む医薬組成物
【出願番号】	特願2012-525774
【特許権者】	ナノキャリア株式会社

ボルテゾミブ (ベルケイド®)

- ✓ 1週間に2回の注射治療が一般的
- ✓ 末梢神経障害等の副作用

本発明により、薬物の血中濃度をコントロールしながら長期にわたり持続可能



- 副作用を軽減や、投与や通院回数の減少を可能とする優れた製剤になることが期待される
- 治療域を広げることで、多発性骨髄腫以外の固形がんに対する治療薬となる可能性

ベルケイド® (多発性骨髄腫治療薬)

武田薬品工業株式会社の100%子会社である米国ミレニウム社が創製

細胞内のプロテアソームという酵素の働きを抑える新しいタイプの分子標的抗がん剤

全世界売上高：1,458億円 (2010年度、武田薬品工業/ジョンソン&ジョンソン)

国内売上高：80億円 (2010年度、ヤンセンファーマ)

新規医薬品の拡充 - 高分子:タンパク質ミセル

2012年11月9日

◆メディネットとの共同研究成果

2009年10月に包括的共同研究契約を締結

併用療法の効果について
共同研究実施

- インターロイキン-2 (IL-2) 内包ミセル
すでに腎臓がん治療などで承認を受けている
免疫力を高める作用を有するタンパク質
- 樹状細胞ワクチン療法
免疫細胞治療のひとつ

【2012年9月19日 日本癌学会で報告】

IL-2内包ミセルと樹状細胞ワクチンの併用試験（マウスがんモデル）

従来のIL-2溶液と樹状細胞ワクチン療法の併用に比べ、がんを特異的に攻撃する細胞傷害性T細胞 (CTL) の誘導を著しく高め、抗がん作用も大幅に増強

この効果は、ミセル化ナノ粒子に内包されたIL-2が血中で長時間ゆっくり放出されること、また、ミセル化ナノ粒子内包IL-2が体内のCTLの増殖する部位であるリンパ節と腫瘍へ移行しやすいことによるものと推察。IL-2のリンパ節と腫瘍への移行はIL-2溶液では見られないものであり、ミセル化ナノ粒子による徐放性効果と併せ、本発見は従来の樹状細胞ワクチン療法の効果を大幅に高める可能性を示唆。

タンパク質ミセルへの挑戦

2012年11月9日

◆LFB Biotechnologies

血友病治療用タンパク質についてミセル化新薬の共同研究を中断

生涯にわたり頻繁な投与が必要とされる血友病治療に関しては、
より詳細なさらなる基礎研究が必要



同社とは事業戦略上、優先度を考え、
ミセルの優位性を担保できる治療薬での開発を模索

今後も協力関係を強化して、より良い治療薬の開発を目指す

エピルビシンミセル (NC-6300) : pH応答性ミセル

【進捗状況】

- 興和株式会社と共同で、非臨床試験実施中
- Phase Iについて、2013年中のIND申請に向け準備中

【学会報告】

- 2012年4月
米国がん学会AACR (American Association for Cancer Research) で発表
- 2012年7月
日本DDS学会で発表

『発表内容』

エピルビシンは、アントラサイクリン系の抗がん剤で、適応範囲が広く、すでに多くのがん患者に使用されているが、副作用として、強い心毒性が認められている。

他方、NC-6300 エピルビシンミセルは、動物モデルにおいて、エピルビシン単独投与と比較して著明な抗腫瘍効果を示し生存期間を有意に延長するとともに、長期間にわたり正常な心機能を保持し、エピルビシンによる心毒性（心筋障害）を有意に軽減させることが明らかになっている。

NC-4016: 今後の開発スケジュール

ダハプラチン誘導体ミセル

英国、フランスでPhase I 48例実施（中断）

グローバル試験を計画

2013年前半 固形がん P I /IIa IND申請予定

実施施設が決定

テキサス州立大学 MDアンダーソンがんセンター Phase I Unit
(The University of Texas MD Anderson Cancer Center)

■癌の治療、研究、教育、予防を専門とする世界最大規模がんセンター

NC-6004: ナノプラチン® 開発現状 (アジア P I / II 試験)

26

ミセル化により、副作用を軽減、P F S 増加により、患者さんのQ O L が改善

【Phase I / II 試験概要】

施設：National Cheng Kung University Hospital (台湾) やNational Cancer Singapore など5施設

MDアドバイザー：松村先生、池田先生 (国立がん研究センター)

対象疾患：転移性および進行性膵臓がん

【学会報告】 2012年9月20日 日本癌学会
2012年9月30日 E S M O

Phase I ステージ結果

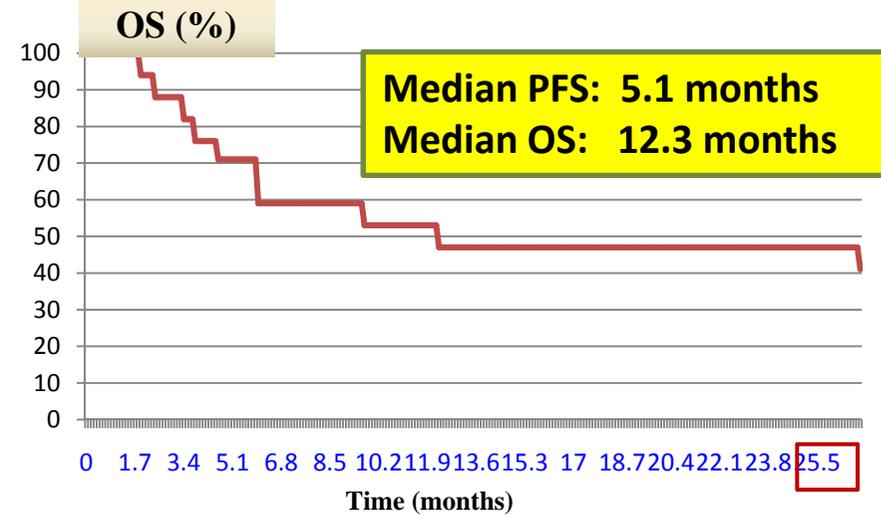
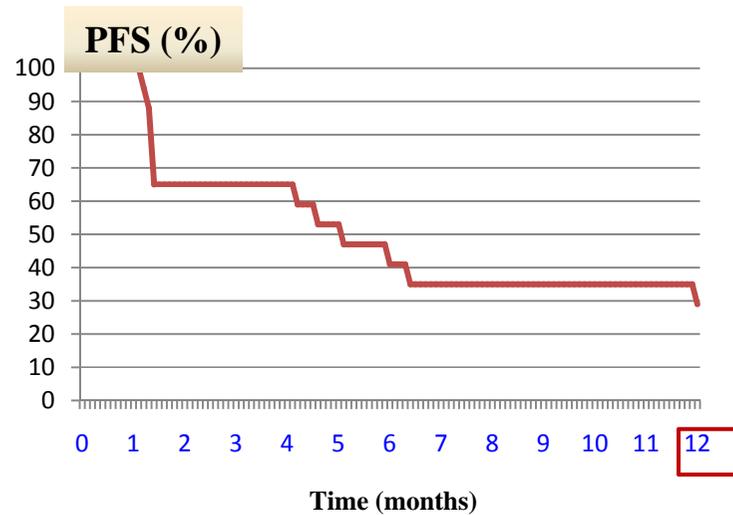
- NC-6004 とゲムシタビンとの併用療法は特に問題となる大きな副作用は観察されず、安全性が確認され、MTDは120 mg/m², RDは90 mg/m² 前後と推察された。
- シスプラチン投与時に見られる腎毒性などの副作用が認められず、シスプラチン投与時に必要とされるハイドレーション削除できた。
- 予防処置を用いた結果、Pt(プラチナ)製剤で問題となる過敏症の発現が完全に抑制された。
- 有効性評価(17例)において、部分奏効が2例(11.8%), 病勢安定が9例(52.9%)と判定され、病勢コントロール率は64.7%であった。
- 全生存期間中央値は12.3カ月、無増悪生存期間は5.1カ月であった。
- 以上の結果から、NC-6004とゲムシタビンの併用療法が、シスプラチンとゲムシタビンとの併用療法に代わり得る療法となることが期待される。

Phase II ステージ進捗状況 (2011年7月～)

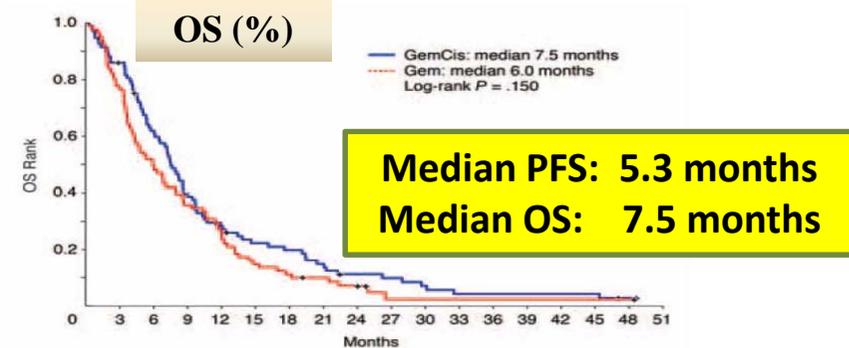
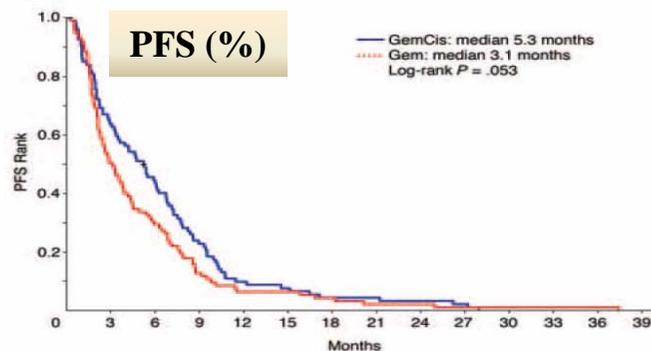
最終の患者登録終了 (全22例)、試験は順調に進捗中

NC-6004: ナノプラチン® 開発成果 (PIパート)

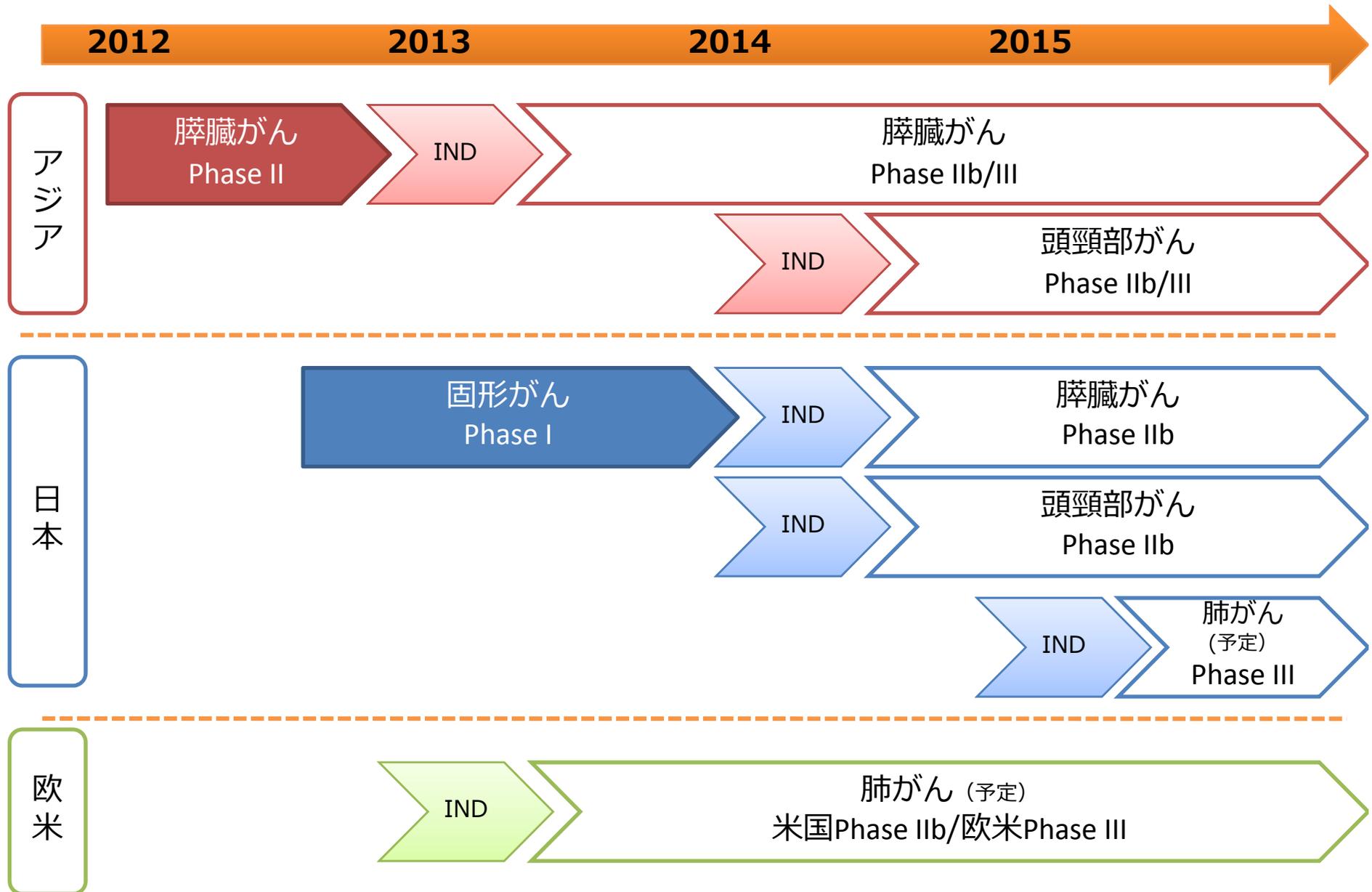
進行性膵臓がん患者に対するゲムシタビン (GEM) との併用効果



シスプラチンとGEMとの併用効果 (PIII試験結果、文献値より)



NC-6004: ナノプラチン® 今後の開発スケジュール



トピックス① NC-6004 ナノプラチン®

2012年11月7日

台湾政府立ち会いのもとに執り行われた Orient Europharmaとのライセンス契約の調印式



左：中富一郎社長
中：Dr. Hu 考試院委員
右：Peter Tsai社長

- アジア地域を対象とする開発及び販売権のライセンスを付与した従前の契約に替えて、新たに製造権を含むライセンス契約を締結
- 新たなライセンス契約では、ミセル原薬（API）および最終製剤に関する全世界における非独占的な製造権をOEP社に付与する
- 膵臓がんを含め、アジア地域におけるNC-6004の開発に関しては今後はOEP社が主体となり、ナノキャリアは共同開発の立場で協力する。開発費用についてはOEP社が負担する
- OEP社は、今後、非独占製造権に対する対価として、開発、販売の段階に応じてナノキャリアに対し総額8億円のマイルストーンを支払うほか、販売数量に応じたロイヤルティーの支払いを行う。また、ナノキャリアは製造に必要な原料の供給を行い、OEP社はこれに対する対価を支払う
- O E P社は、開発権付与に対する対価として上記に加え一定のマイルストーンを支払う
- OEP社への製造権付与に伴い、同社は台湾で医薬品製造子会社を設立して製造工場の建設を予定しており、当社は本子会社に出資する

早期承認、中国への市場拡大などの可能性が高まった

トピックス① NC-6004 ナノプラチン®



発表 & 調印式会場

斥資7億元 友華攜手日商建新藥廠

預計2016年投產 年創146億元營收

【本報台北訊】國內生技大廠友華生技（4120）昨日與日本NanoCarrier公司完成新合作案簽約儀式，聯合成立新公司，斥資7億元於鹿耳門興建全新NanoPlatin工廠，預計明年動工，2016年投產，一旦新藥通過三期臨床試驗上市，1年可創6億元（約146億元台幣）營收。

友華董事長鄭正弘表示，NanoPlatin已在台展開前臨床進行二期臨床試驗。2008年開發抗腫瘤新藥NanoPlatin至今已3年，目前已在台、美、日第一階段試驗，由於研發進展順利，且看好NanoPlatin在亞洲區及歐美等市場銷售的潛力，因此決定與NanoCarrier進一步合作，合資成立新公司。

雙方將合作建立、興建及營運新藥廠，預計2016年完工，「預計將可創造50位國際生技專業人才的就業機會，預計2016年底，新公司全年營收可達6億元。」

友華董事長鄭正弘表示，友華與日本NanoCarrier簽署新合作案簽約儀式，預計成立公司名為友華NanoCarrier Co.合作計劃重點如下：

投資金額	7億元
投資地點	雲林虎尾
投資比率	友華佔85%、日資佔15%
主要生產藥品	抗腫瘤新藥
投資時間	2016年投產，預計11年營收上達9億元

資料來源：工商、記者整理



報道陣に囲まれる

台日合作研發胰臟癌藥 分享成果

已進入第二期臨床試驗 雙方斥資興建癌症針劑廠

記者黃麗娟/台北報導 由友華生技與日本生技藥廠友華生技生技藥廠，友華生技昨日與日本生技藥廠NanoCarrier Co., Ltd. 簽署合作案，共同研發抗胰臟癌新藥，跨入全球藥廠市場。

友華生技董事長鄭正弘表示，與NanoCarrier合作開發的抗胰臟癌新藥NanoPlatin，已進入第二期臨床試驗。由於研發進展順利，因此決定與NanoCarrier進一步合作，合資成立新公司。

雙方將合作建立、興建及營運新藥廠，預計2016年完工，「預計將可創造50位國際生技專業人才的就業機會，預計2016年底，新公司全年營收可達6億元。」

友華董事長鄭正弘表示，友華與日本NanoCarrier簽署新合作案簽約儀式，預計成立公司名為友華NanoCarrier Co.合作計劃重點如下：

投資金額	7億元
投資地點	雲林虎尾
投資比率	友華佔85%、日資佔15%
主要生產藥品	抗腫瘤新藥
投資時間	2016年投產，預計11年營收上達9億元

資料來源：工商、記者整理

- ▲右から
- 行政院經濟部 CH Daniel Cheng 主任
- 行政院科技會報辦公室 HK Chiang 執行秘書
- 中富一郎 社長
- Peter Tsai 社長
- TFDA JJ Kang 局長
- 花田博幸 取締役
- 中塚琢磨 取締役

トピックス②

信越化学工業株式会社への第3者割当増資

【目的】 化学メーカーとして世界的なリーディングカンパニーである信越化学と、協力的な関係をつくり、当社ミセル化ナノ粒子技術の中核であるポリマーの改善等をより緊密な関係のもとに進め、研究開発基盤を強化する

概要

- (1) 払込期日 平成24年11月15日
- (2) 発行新株式数 12,000株
- (3) 発行価額 57,473円
- (4) 調達資金の額 689,676,000円
- (5) 募集又は割当方法

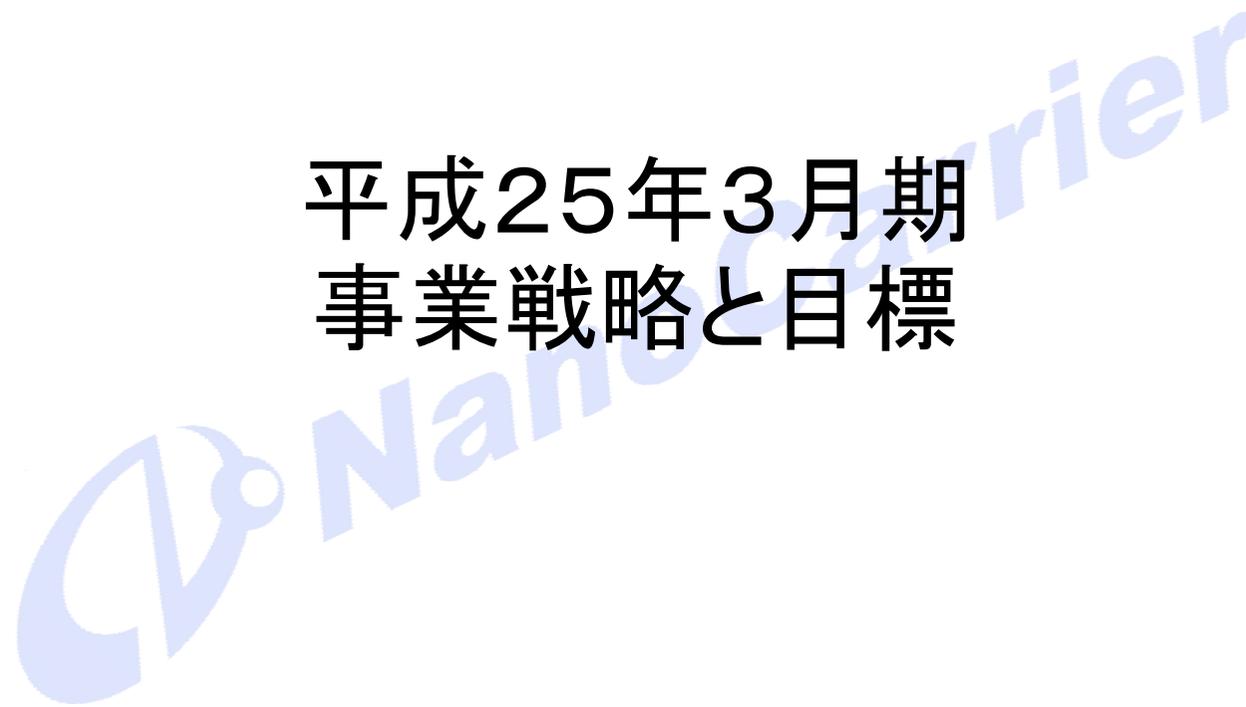
割当予定先： 第三者割当増資（信越化学工業株式会社）

上記に加え、信越化学は、株式会社ウィズ・パートナーズが無限責任組合員として組成する2つの投資事業有限責任組合の保有する当社第8回新株予約権の一部行使により取得する12,000株の有償譲渡を受ける予定

合計 24,000株となり、筆頭株主となる予定 (9.22%)

当社は、これにより10億4900万円を調達

平成25年3月期
事業戦略と目標



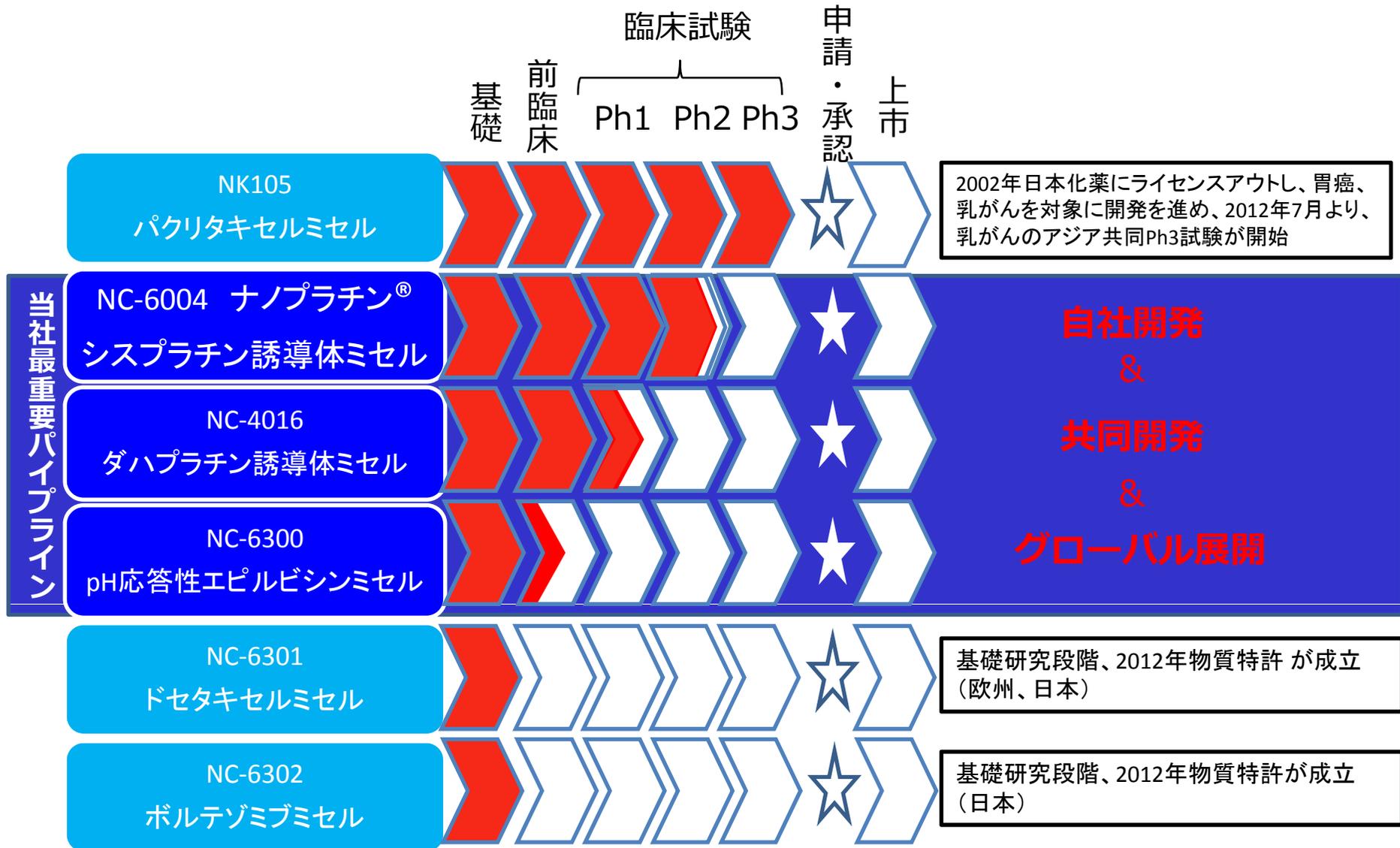
重点戦略：最重要パイプラインに経営資源を集中

- ◆ 企業価値を最速で極大化するため、最重要パイプラインの開発を、本年3月の新規調達資金で前倒しする
- ◆ そのため前年度よりも開発投資は拡大するが、同時に研究開発の進捗状況に合わせ、事業開発（ライセンスアウト）を積極化する

単位：百万円	平成23年度 (第16期) 実績	平成24年度 (第17期) 当初予定	平成24年度 (第17期) 10/1修正
売上	346	242	370
開発費 (臨床および基礎)	320	1,035	803
販管費	353	379	379
営業利益(損失)	△333	△1,172	△812
現預金期首残高	1,872	3,481	-

研究開発: 最重要パイプラインの開発を加速

◆ 薬効・安全性確認済み医薬品を新規物質特許でリバイバル⇒高い成功確率



事業開発計画:2012年度達成の目標

(収益のボトムアップ/アップサイド)

1. 研究開発パイプラインの導出追求

- 最適なパートナーの選択：NC-6004、NC-4016、ドセタキセルミセルの地域毎、あるいは全世界での導出交渉の積極化
 - O E Pへの新たなライセンス契約（製造権付与）
ボルテゾミブ（ベルケイド®）ミセルを追加

2. 製薬企業による製品特許期間のライフサイクルマネジメント戦略上重要な要素技術として技術提携の拡充

- エーザイ（日本）に続く新たな提携

3. 基盤技術拡充を目的とした共同研究提携

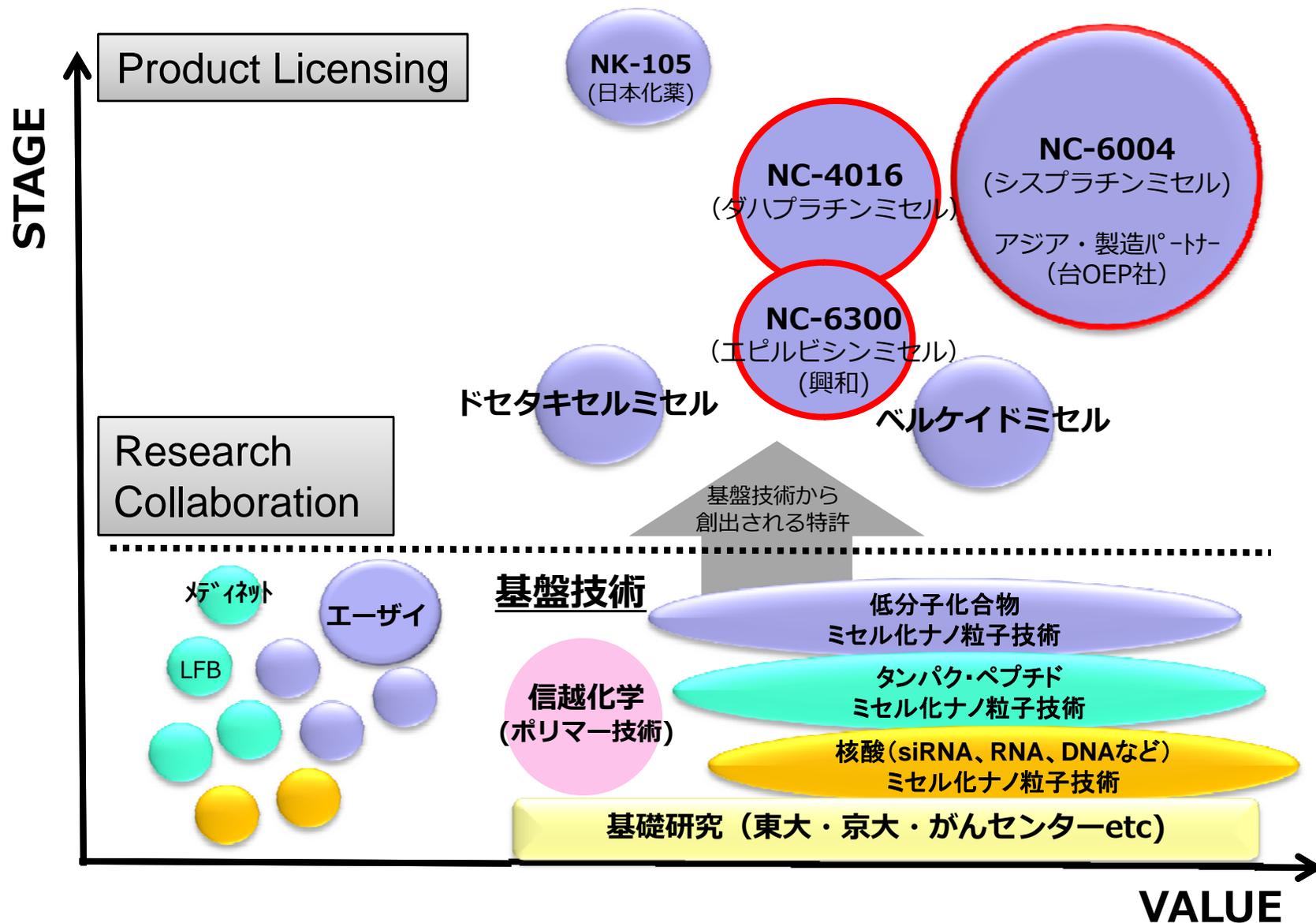
- siRNAミセル、センサー結合型ミセルでのアカデミアや製薬企業との共同研究に続く新たな提携

4. 医薬品事業以外への基盤技術の適用拡大と強化

- 化粧品事業分野等における新たな提携
 - 国内高級化粧品トップメーカー、アルビオンと業務提携
- 技術基盤の強化
 - 世界的リーディングカンパニー、信越化学との事業提携

ナノキャリアの技術・製品価値
および
企業価値について

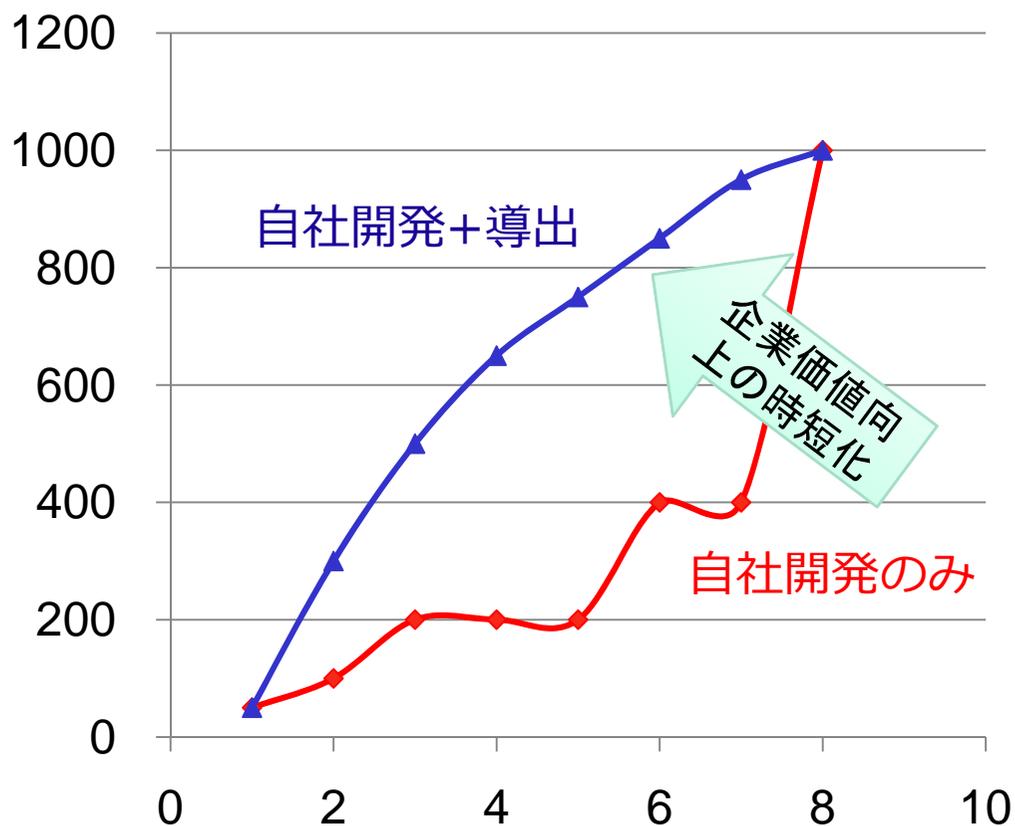
パイプラインおよび基盤技術の価値



本資料は、ご参考のために株式会社ウイズ・パートナーズが独自に作成したものです。本資料に関する事項について貴社が意思決定を行う場合には、事前に「ウイズ・ヘルスケアPE1号投資事業有限責任組合 説明書」を熟読して頂きますようお願い申し上げます。本資料は、新聞その他の情報メディアによる報道、民間調査会社等による各種刊行物、インターネットホームページ、有価証券報告書及びプレスリリース等の情報に基づいて作成しておりますが、ウイズ・パートナーズはそれらの情報を、独自の検証を行うことなく、そのまま利用しており、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。

Copyright © 2012 Whiz Partners inc. All Rights Reserved.

企業価値と導出時期の関係



パイプライン数：多数
(リスク小)

パイプライン数：少
(リスク大)

自社基盤技術から持続的なパイプライン創出が可能な創薬基盤型バイオベンチャーはより早期でパイプラインを導出し、新たなパイプライン創出に注力する方がより少ない資金で企業価値を安定的に増加させられる

ご清聴ありがとうございました



本資料で記述している業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

お問い合わせ先
ナノキャリア株式会社 社長室 電話03-3548-0217